

佐久平斎場

浅間山で見送る佐久由来の斎場づくり



アプローチからみる正面性ある外観



浅間山に向かう施設づくり



ヒューマンスケールによる景観調和

計画概要

「佐久平斎場」は、佐久市街地から車で15分ほど、北陸新幹線佐久平駅から車で5分ほど、国道141号や中部横断自動車道佐久北ICに至近に位置する火葬場施設である。

敷地は、北北東方向に雄大な浅間山を望み、南側にカラ松林と佐久地域特有の田切地形である入穴澤が隣接する閑静な環境を有し、佐久の原風景が色濃く感じられる場所にある。

地域住民の心の拠り所とも言える浅間山、そのふもとに佇む立地環境を最大限に生かし、故人を偲びながら儀式を執り行うにふさわしい、佐久ならではの斎場を目指した。

また佐久地域では、火葬中にお線香を絶やさぬ風習が根付いており、待合の最中でも炉前への往来を考慮する必要があること、火葬後に葬儀・告別式の風習から、午前中に火葬受付の集中が予想されることなど、地域の葬送風習に寄り添う施設づくりを目指した。

佐久らしさが感じられる斎場づくりと、地域の風習に応える斎場づくりの大きく2つをテーマに、地域住民に末永く愛され親しまれる施設となるよう、下記の3つの観点から施設計画を行った。

1) 告別から拾骨に至るまで完全に個室化する、炉前の空間づくり

火葬中にもお線香を絶やさぬ葬送風習に対応して、炉前で告別と拾骨を行える専有化に加え、7基全てに対し「1炉前1告別拾骨室」による完全個室化を実現した。各々のご遺族や会葬者が火葬中にいつでも気兼ねなく故人を偲ぶことができる計画としている。

2) 地域の原風景「浅間山」を正面に見据える、待合の空間づくり

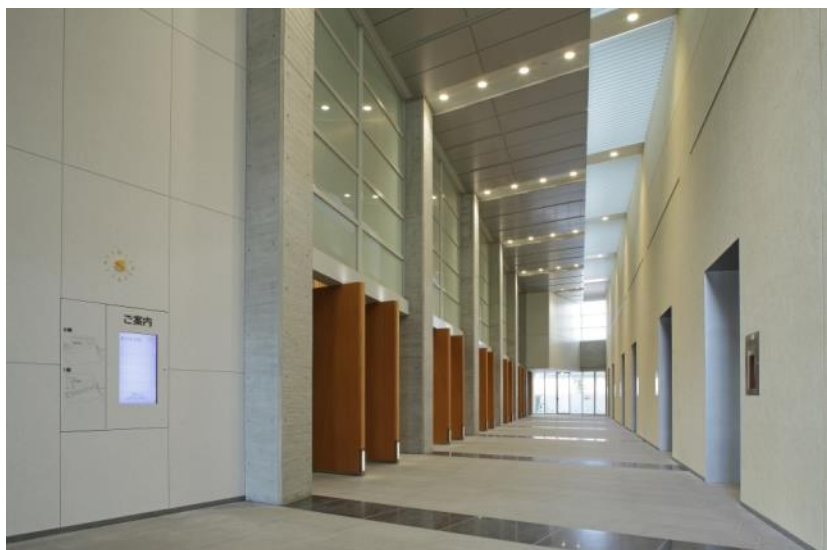
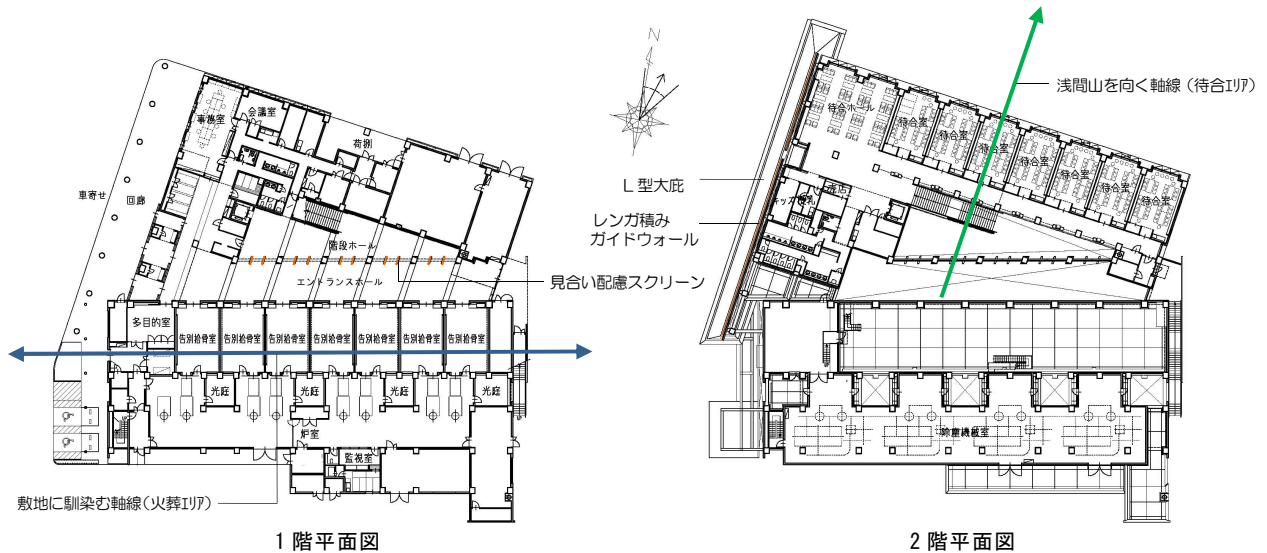
待合エリアは、周辺の高低差から2階に配置して視界を確保し、さらに浅間山方向への軸線をベースに平面計画を行うことで、待合

ホールや各待合室から平等に、浅間山のパノラマを望める計画としている。

3) 隣接する2つのホールにより見合いや動線交錯を軽減する、移動の空間づくり

午前中の火葬受付ニーズが高いということは、毎日午前の時間帯にピーク運用を行うことにもつながる。視線抑制機能を持たせた見合い配慮スクリーンを介し隣接する、エントランスと階段の2つの吹抜ホールにより、入退館時と待合から移動時の動線交錯や見合いを軽減する計画としている。

その他、自然光による厳肅性と地元天然木仕上の採用による安らぎを併せもつ内部空間、L型大庇とレンガ積みガイドウォールによる深い軒の象徴的な外観デザイン、ヒューマンスケールによる景観調和、太陽光や雨水再利用等による省エネ型施設など、計画に際し様々な配慮を実践している。



■建築概要

名称 佐久平斎場
 所在地 佐久市長土呂字上北原 875 番地 1 他
 建築主 佐久市
 地域地区 無指定/用途・防火指定なし
 敷地面積 15,024.19 m²
 建築面積 2,844.13 m²
 延べ面積 3,886.22 m²
 軒高さ 12.50 m
 最高高さ 13.25 m
 構造規模 地上 2 階、鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造 (大庇)
 主要室 告別拾骨室×7 室、待合室×7 室、待合ホール、多目的室、僧侶控室、炉室、除塵機械室
 火葬炉数 8 基 (人体炉 7 基、動物炉 1 基)
 駐車台数 77 台 (一般:56、車椅子:2、マイクロバス:7、職員:12)

■設備概要

受電方式: 3φ3W 6600V 60Hz
 屋内型キュービクル
 自家発電: 3φ3W 6600V 60Hz 750KVA
 ディーゼル式
 空調熱源: ガス焚吸収式冷温水発生機
 空調方式: ダクト/ファンコイル/空冷ヒートポンプ方式床暖房
 給水方式: 加圧給水式、受水槽 4t
 排水方式: 雑排水・汚水、雨水分流、雨水再利用濾過システム
 火葬炉: ガス式

■主な外部仕上

屋根: 外断熱アスファルト防水
 軒天: アルミスパンデル他
 外壁: 左官仕上げ、水性フッ素吹付、

二丁掛タイル、レンガ積み他
 床: 花崗岩 J&P、
 建具: アルミ製、ステンレス製他

■主な内部仕上

壁: 左官仕上、不燃性天然木格子、RC 杉板本実型枠打放し他
 床: 花崗岩 J&P、タイルカーペット他
 天井: 岩綿吸音板、アルミ複合板他

■設計・監理

基本設計: 梓・ガド設計共同体
 実施設計: 梓・ガド設計共同体
 工事監理: 梓・ガド設計共同体
 炉設計施工: 株式会社 宮本工業所
 設計期間: 2013/2~2013/9 (基本)
 : 2013/12~2014/6 (実施)
 工事期間: 2014/10~2016/3